

令和4年度幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業 成果報告書

団体名：金沢学院大学

1. 事業の実績

(1) 事業目的

幼児教育の無償化に伴い、幼児教育の更なる質の向上が求められており、幼稚園教諭二種免許状を有する教員に対し、一種免許状への上進を努力義務とされている。石川県内の幼稚園および認定こども園等に勤務する幼稚園教諭及び保育教諭についても、幼稚園教諭二種免許状を有する教員の割合が高い。しかしながら、石川県内においては、2018年度まで上進のための免許法認定講習等が開発されていなかったのが現状であった。2019年度より文部科学省の委託事業として免許法認定講習を開講して以来、現職者の資質向上機会を設けることが適ってきたが、新型コロナウイルス感染症の流行を経て、各種研修自体の実施の困難性をはじめ、保育現場は新たな課題にも直面している。

本事業は、石川県下における幼稚園教諭二種免許状を有し、一種免許状への上進を希望する者を対象に、社会や現場のニーズに応えた適切な講習を開発・実施し、石川県内における幼児教育の質的向上に貢献することを目的とする。

(2) 事業概要

本学は、2018年4月に保育士資格・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校一種免許状（英語）を取得できる保育士・教員養成課程として、文学部教育学科を開設した。そのため、保幼連携や幼小連携に対応できる教員養成に長けた専門的知識を持った教授陣が配置されている。

本学が所在する石川県においては、石川県私立幼稚園協会の調査によると、2019年の時点で幼稚園教諭二種免許状所有の現職幼稚園教員が100名程度いるとの結果であった。実際、2020年度及び2021年度の委託事業を活用した免許法認定講習を開講したところ、2020年度は23名、2021年度は24名の上進希望者が受講しており、うち22名については上進が適う見込みである。2021年度についても、3講習を開講し、12名の申し込みがあり、述べ30名が受講し、単位修得した。

2022年度も引き続き、県下の幼稚園教諭一種免許状への上進希望者のための講習を開発・実施したいと考えている。本学では、幼児教育の質の向上に資する幼稚園教諭の免許状の上進が適うよう、最新の教育事情を踏まえた免許法認定講習を開設する。

4年度目となる2022年度は、第2サイクルの2年目となり、2021年度と同様、5単位分の講習を開設する予定である。なお、募集定員については、過去3ヵ年の実績と、講習内容の質的向上も考え、30名とする。

上記の通り、石川県内で上進を希望する現職幼稚園教諭はまだ80名程度いると考えられる。しかし、本人や勤務園の事情もあり、全員が受講できるわけではない。多忙を極める現職の幼稚園教諭にとって、本事業による講習がより良い学びの場となり、また、自身のキャリアアップにも大きく貢献できる講習となるよう、今年度の開設科目については、私立幼稚園協会主催の研修プログラムとして「処遇改善加算Ⅱ」に係る講習としての開講も目指し、教員研修、保育士のキャ

リアアップ研修等にも対応可能な講習として受講者負担の減る形態で実施したいと考えている。

本事業を通じ、県下の幼稚園教諭に対する資質向上の機会の充実を図るとともに、現場の状況に応答した二種免許状所持者に対する上進講習の在り方について、内容及び効果的な実施方法等を検証していくこととしている。

実施日程（実績）

実施時期	活動の内容		
	実施内容	評価	検討委員会
4月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・検討委員会での意見を踏まえ講習を開発（開設科目の設定） ・石川県私立幼稚園協会等と開催日程協議 		<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の現職教員が幼稚園教諭一種免許状を取得するための免許法認定講習の在り方の検討 ・「処遇改善加算Ⅱ」に係る講習としての認定に向け、石川県少子化対策監室との認定に向けた打ち合わせ実施 ・石川県私立幼稚園協会と「処遇改善加算Ⅱ」に係る講習としての認定を受けるため、内容確認、協会員への周知に向けた検討
4月上旬～5月下旬	<ul style="list-style-type: none"> ・免許法認定講習等の認定申請（免許更新講習との相互認定として申請） 		
6月上旬～7月	<ul style="list-style-type: none"> ・受講希望者への募集開始 		
7月～8月 ①令和4年7月23日、8月8日、9月3日、10月22日開講 ②令和4年8月29日・30日開講 ③令和4年8月27日、10月1日	①「グローバル時代における幼児教育実践概説」開講（於：金沢学院大学2号館講義室） ②「教育心理学」開講（於：金沢学院大学2号館講義室） ③「特別なニーズのある幼児への支援」開講（於：金沢学院大学2	<ul style="list-style-type: none"> ・各実施講習の評価と省察を科目ごとに実施 	

日、11月12日、12月3日開講 *11月12日回で2名にオンデマンド受講対応実施 *12月3日回で1名にオンデマンド受講対応実施	号館講義室) (一部遠隔授業)		
2023年2月	受講者へ「学力に関する証明書」等の発送		令和5年度開講に向け私立幼稚園協会等をはじめとする関連団体を通じ、受講者の意向調査等の検討を実施
2023年2～3月	令和4年度実績を総括し、関連団体との協議の結果、石川県内での現時点でのニーズを満たしたと判断し、次年度以降の閉講を決定。		・令和4年度実施講習の評価と省察を科目ごとに実施 ・令和5年度以降の取得希望状況等を確認し、開講科目及び内容の検討(受講ニーズの検討)

(3) 成果

①本事業を活用して開設した講習

令和4年度については、本事業を活用した2サイクル目の2年目の事業となる。令和3年度までの5単位の開講を終え、受講生が上進のための単位の修得が適う状況を用意するため、令和3年度科目区分と重複しない3科目の開講を行った。開講科目は表1-①「開設実施科目一覧」の通りである。受講料は助成を受けることができたため、令和3年同様1単位当たり5,000円での開講が叶った。定員は令和3年度までの参加状況を反映し、各講座30名と設定した。石川県での新型コロナウイルス感染症の感染状況と講習効果を踏まえ、3科目とも対面にて講習を計画・実施した。ただし、各科目での新型コロナウイルス感染症に伴う、オンデマンド受講用に当日の講義を録画配信により後日受講していただく対応を行った(11月12日2名、12月3日1名)。急遽オンライン受講となったが、講義科目に該当する部分での受講であったので対応できたが、演習科目は対面での実施が望ましいと考える。

令和3年度での成果に基づき、科目「グローバル時代における幼児教育実践概説」では、英語絵本の作成に関する演習を実施し、保育実践に生きる講習内容を構想し、講習期間中にテーマに沿った保育実践をお願いし、その結果を持ち寄りさらに学びを深める形式として実施した。複数の受講者がその後、講習で扱った指導法を職場で実践した成果を実感して下さったことが事後アンケート結果から明らかになった。保育現場と本講習を往還して行う講習内容についてさらなる

成果を得たと言える。

②上記講座のそれぞれの受講者数（実数）

今年度の申込者は14名で、各講座の受講数は表1-②「各開設科目の受講者数」の通りである。新型コロナウイルスの感染拡大の影響や周知する期間が短かったことなどにより、設定した受講者数の半数にとどまったが、新型コロナウイルス感染症による影響から、やむをえない参加者数であると考えている。なお、新型コロナウイルス感染症に伴う欠席者が生じたため、11月12日の回に2名、12月3日の回に1名、オンデマンド受講による対応を行った。

③単位取得者数

各講習参加者全員が単位を取得した。

④本事業を活用して幼稚園教諭等一種免許状に上進した教員数

表2の通り、今年度受講者の13名が幼稚園教諭等一種免許状に上進できる単位を修得した。13名のうち、2名が経験年数の不足（8年と11年）により、上進の条件に該当していない。残り1名の受講者は、昨年度の科目受講が適わなかったために充足していない受講者である。

表1 令和4年度金沢学院大学幼稚園教諭免許法認定講習開講科目一覧

①開設実施科目一覧

新たに開設した講習科目名 (単位数)	講習内容
グローバル時代における幼児教育実践概説 (2単位)	クレヨンや絵の具から「肌色」がなくなり、「薄橙（うすだいだい）」と表記が変わった。身近な例を挙げるまでもなく、グローバル時代と言われる変化は子どもの周囲に実在する。そうした状況の中、幼児教育・保育実践におけるグローバル化とはどう捉えられるのか。多国籍児への対応や宗教食などの問題をはじめ、幼児教育の実践現場ではグローバル時代の問題に直面している。現在、グローバル時代を生きる子どもへの保育・教育のあり方をはじめ、実際のグローバル時代に則した実践を展開していく実践力が求められているといえる。本科目では、多文化理解・多文化共生に関する現在の状況を理解し、学習を深めていく。その上で、グローバル時代における幼児教育・保育実践を展開していく実践力についても実例を理解しながら保育現場での実践を行うことによる理解を深める双方向型の授業を展開していく。
教育心理学（1単位）	幼児教育における学びの主体者は幼児である事に疑いはない。教育心理学では、機能的な側面から、この学びを「できる」「わかる」「ためす」とすることができる。実際、これは幼児教育において育みたい「資質・能力の三つの柱」にそのまま対応する。「できる」は「知識及び技能の基礎」、「わかる」は「思考力、判断力、表現力等の基礎」、そして「ためす」は「学びに向かう力、人

	間性等」となる。子どもたちの学びを支えるために、教育心理学では三つの柱に沿った学びの在り方や発達の仕方を整理しながら、幼児教育の場面学びの基本を問い直しながら理解していく。
特別なニーズのある幼児への支援(2単位)	幼児教育の現場はフルインクルーシブな教員環境である。そのため、多様な子どもたちの一人として、障害のある幼児や特別なニーズを有する幼児が存在する。最新の特別支援教育の知見、就学相談、巡回相談の実例から、それらの子どもに適した具体的な環境面の配慮、人的な支援、集団作りの方法等について理解を深めながら、講義を行う。

②各開設科目の受講者数

講習科目名	受講者数	開設数
グローバル時代における幼児教育実践概説	11名	1
教育心理学	12名	1
特別なニーズのある幼児への支援	11名	1

表2 本事業を活用して幼稚園教諭等一種免許状に上進した教員数

今年度受講者数	経験年数12年以上の受講者	今年度上進者(単位充足者数)
14名	12名	13名(内2名、経験年数未充足)

③受講者アンケート結果

本事業終了から約1か月後に、講習内容がその後仕事に活かされたこと等講習の効果や運営一般についての事後アンケートを実施した。受講者14名中11名より回答結果を得た(回答率86%)。アンケート項目に関しては、オンライン上で以下の項目を準備し任意の回答をお願いした。その結果を列記し、今後の課題の整理とする。

(1) アンケート項目一覧

項目
Q1. 免許法認定講習の受講動機について以下の選択肢より、該当する理由をお選びください。(複数回答可) (必須回答) <ul style="list-style-type: none"> ・以前から2種免許状から1種免許状へ上進を考えていたため。 ・園長等の管理職より、受講するよう勧められたため。 ・自分自身の資質・能力の向上のため処遇改善・キャリアアップのため。
Q2. 今後、本事業での単位修得者の皆様に対して、免許上進後1種免許状を取得後の勤務状況等の簡単な事後調査にご協力をお願いしたいと考えております。 <ul style="list-style-type: none"> ・「協力できる・協力できない」の二件法にて回答
Q3. あなたが受講した科目の満足度についてお聞かせください。(必須回答) <ul style="list-style-type: none"> ・「不満・やや不満・やや満足・満足・未受講」の五件法にて回答

Q4 受講された科目についてのご意見・ご感想がありましたらお聞かせください。 ・各科目について自由記述による任意回答
Q5. 申込や当日の運営等でお気づきの点がございましたら、お聞かせください。 ・自由記述による任意回答
Q6.開講科目（講習内容や実施形態・実施時間等）に関して、ご意見等がございましたら、お聞かせください。 ・自由記述による任意回答
Q7.講習での学びが仕事に活かされたと感じた出来事があればお聞かせください。 ・自由記述による任意回答
Q8.保育実践を高めていくために、今後扱ってほしい講義内容や、保育を行う中で抱えている困難感があれば参考までにお聞かせください。 ・自由記述による任意回答
Q9.講習全体を通してのご感想や次年度の受講に向けてのご要望等をお聞かせください。 ・自由記述による回答（必須回答）

(2) アンケート結果

Q1. 免許法認定講習の受講動機について以下の選択肢より、該当する理由をお選びください。

自分自身の資質・能力の向上のため・処遇改善・キャリアアップのため	72.7 % (8)
以前から 2 種免許状から 1 種免許状へ上進を考えていた。	54.5 % (6)
園長等の管理職より、受講するよう勧められたため。	45.5% (5)
県内で受けられること、補助のおかげで負担少なく受けられたこと	9.1% (1)

Q2. 今後、本事業での単位修得者の皆様に対して、免許上進後 1 種免許状を取得後の勤務状況等の簡単な事後調査にご協力をお願いしたいと考えております。ご協力いただけますでしょうか。

協力できる	90.9 % (10)
協力できない	9.1 % (1)

Q3. あなたが受講した科目の満足度についてお聞かせください。

「グローバル時代における幼児教育実践概説」

満足	7 名
やや満足	1 名
未受講	3 名

「教育心理学」

満足	8名
やや満足	1名
未受講	2名

「特別なニーズのある幼児への支援」

満足	8名
やや満足	1名
未受講	2名

Q4. 受講された科目についてのご意見・ご感想がありましたらお聞かせください。

科目「グローバル時代における幼児教育実践概説」

・子ども達が幼稚園時代から英語に触れる機会として外部講師にお任せではなく歌や絵本など保育の一部にすることで英語に親しむことがより身近になると分かった。

普段あまり関わりのない英語をこの様な形で自分の知識として吸収できて良かったと感じています。

・広い世界を見てきた先生方のお話を聞いて、自分自身の物事の見方や考え方をもっと広い視野で考えなければいけないと思いました。普段なかなか触れない英語に触れたり、講義を通して同じ受講している人たちとの交流もとることができて、よかったです。

・この様な授業を受けて教師になる、今の学生さんが羨ましく感じます。

・英語の歌や絵本を用いてとても楽しい授業だった。この講習を受講したことをきっかけに、英語の絵本や言葉掛けを保育に取り入れたところ想像以上に子どもたちが興味をもつ反応が見られた。「英語は楽しい」と思えるきっかけをこれからも私自身が楽しみながら取り入れていきたい。

・自分の生きてきた時代とは違い、これからの子どもたちの生活には英語が必須となるであろうことを踏まえ、保育の中でも自分自身が苦手意識を持たずに、子どもたちとともに英語に親しんでいけるといいなと考えを改めることが出来ました。

科目「教育心理学」

・少し難しい内容だったが、普段は学ぶことのない専門的なことを知識として頭に入れられて良かった。

・正直難しい言葉がいっぱいでしたが、普段保育する中で自分がしていたり、実は疎かになってしまっているのではないかと自分の保育を見つめ直すことができました。

・自分が学生の頃に習ったこともあり、スムーズに先生の話が入ってきたり実際の現場と照らし合わせる部分もあり、とても勉強になりました。

・受講する前は、難しい内容だと思っていました。受講しもちろん難しい内容でしたが、新しい学びが沢山あり、興味深かったです。丁寧に説明していただき、心理学に興味をもてました。

- ・視野を広げて、面白く学べました。
- ・心理学と聞くと難しいイメージがあるが、様々な実験や本の紹介を通してわかりやすく教えて頂いた。今後も紹介して頂いた本を読んだり、資料を読み返しながら自分なりに深めていきたい。

科目「特別なニーズのある幼児への支援」

- ・本当のインクルーシブ教育の実現に向けて、園生活での配慮や接し方を小学校へとしっかり繋げていけたらと思った。
- ・日々の保育の中で迷う事や、悩む事が多かったのですがとても楽しく又、興味深く受講することができました。保育する上でのメンタル的にも余裕が感じられるようになりました。何より講師の佐田東先生の話術とか人柄がとても心地良く聴いていて話が入り易く、先生ってそもそもこうじゃなきゃいけないんだろうと感じていました。いつも、我々を受け入れて下さっていてそのままでもいいんだよというメッセージがとても温かく、先生みたいな先生を目指さなくてとは感じたくらいでした。長い期間でしたが有難うございました。
- ・保育の中で、気になる子と感じる子がいっぱいいる中で、その子にもその子の周りの子も含めて集団として育てていくことに難しさと楽しさを感じている日々なのですが、その子その子をしっかりと見つめながら保育をしていく大切さを学びました。
- ・特別なニーズのある子、どの子を保育するに当たってもとても参考になる内容でした。又、講師の先生のお話もとてもわかり易く聞き易く、自分も先生のように子ども達に接していかなければならないと思いました。
- ・学び続けることの大切さを感じた講義でした。
- ・大切な子どもたちと接している今の現場の教師が、皆、学ぶべき重要性を感じました。
- ・日本のすべての子どもたちがインクルーシブ教育を受けられる世の中になるよう、興味を持ち続けていきたい。これから様々な子どもたちと出会う度に、UNESCO 定義のインクルーシブ教育を実践することに近づけるよう努力したい。

Q5. 申込や当日の運営等でお気づきの点がございましたら、お聞かせください。

- ・座席によって夏は冷房で寒い、冬は換気で寒いと、温度の差がかなりあったと思う。移動OKだと助かった。
- ・コロナ禍の開催、又園行事や大学の都合講師の先生の予定など色々考慮した上での運営、ありがたいと思いました。
- ・コロナウイルスに感染してしまった時や、行事等で受講できなかった際にも丁寧な対応を下さったこと、感謝でいっぱいです。ありがとうございました。
- ・コロナ禍で、会場、受講者、講師の先生全ての日程調整を行なったの対面での開講有難う御座いました。
- ・とても丁寧に対応してくださって安心して受講することができました。
- ・わからない所を訪ねたりしても、丁寧に対応していただき、特に困る事はありませんでした。

・毎回、どの先生方も温かく「おつかれさまです」と迎えて下さったり、メールでのご対応もいつもわかりやすく丁寧だったりとても感謝しています。ありがとうございました。

Q6. 開講科目（講習内容や実施形態・実施期間・実施時間等）に関して、ご意見等がございましたら、お聞かせください。

・雪の中では参加が難しかったと思うので、雪の降る前に全日程が終わって良かった。オンデマンド配信など欠席の場合にも柔軟な対応があると分かり安心して参加できた。

・毎年とても楽しく参加させて頂きました。我々の学びを考慮したものでとても勉強になりました。

・昨年度と今年度、2年続けて受講させて頂いて、近場で受講出来、とても助かりました。

・毎年工夫して下さりわかりやすい講義でたのしみにしておりました。できれば、夏の間できればよかったです。

・実施日程が、もう少し早くわかれば、スケジュールを調整ができるので、ありがたい。

夏休みの期間に収まると嬉しい。

・欠席授業の動画を配信して頂いたことに感謝しています。昨年から出席した授業の動画も欲しくなりました。

・前年度は夏休みに集中していたが、今年度は12月までの実施期間だった。最後の2回は体調が優れず、オンデマンドでの受講が可能になったことは本当に救われました。

Q7. 講習での学びが仕事に活かされたと感じた出来事があればお聞かせください。

・保護者対応の際に、自分の意見としては言いにくいことも学んだことを通して自信を持って説明できた。

・先生の言葉を思い出したり、どうもしっくりこないなと感じた時に新しい考えに結びついたり、実際こういう事だったのかと気づいた時は楽しいです。その子の気持ちに寄り添う時の考え方にも幅が出来ました。やっぱりそうなんだ、、、と思うし、子どももわかってもらえることは嬉しそうです。

・ざっくりとした内容になってしまうのですが、この今回学んだ特別なニーズのある子の受講内容を職員に還元でき、共有できる知識となりました。

・実際の保育の中で、あっこういう事だ、こうして見ようなど気づくことが多くて一層楽しくなりました。

・英語で絵本を読み、手遊びをしました。こどもたちは、いろんな場面で私から聞いた英語を口にしたりしていた。小さい頃から日本語以外の言語に触れたりすることで多様性を感じられると思った。配慮を要する子や、この子どうなのかな？と思う子に対して講義で聞いたことが重なったりした。その子に対する接し方が変わった。

・子どもたちと行う活動の中で、教材をどう扱うか考えたり、その子の姿をみながらどう対応するか？迷った時に、自分の中の選択する幅がひろがり、柔軟に対応できるようになった気がします。

- ・遊びの面白さをアップする工夫、子どもたちを見る目、など質が上がったと感じている反面、子どもたち個々への接し方は自信を失うことも出てきています。
- ・子どもたちに挨拶や一言だけだが、英語で話しかける機会が増えた。「なんて言ってるの？」という表情ではあるがなんとなく意味が伝わったり、英語によって笑顔が生まれているように感じる。
- ・子どもたちを見る視点が変わった。 苦手に思っていた英語の絵本の読み聞かせを実践したところ、子どもたちの反応が良くまたやってみようと思えた。

Q8. 保育実践を高めていくために、今後扱ってほしい講義内容や、保育を行う中で抱えている困難感があれば参考までにお聞かせください。

- ・グローバルの授業のように即実践できるものは非常に役立つし、学びと保育が結びつきやすく自分の中にも落とし込みやすいと思う。
- ・特別なニーズのある子と言っても、2人と同じ子はいないし結局は、学んだことを活かして目の前にいる子の姿から自分との関わりの中でどのように接していったらよいのか探っていくしかない。失敗したり思うようにいかない事の方が多いが、だからこそ楽しいのかもしれない。
- ・特別なニーズのある子に関しては、保育をしていく中で、やはり難しさを感じる人が多いと思うので継続して頂きたいです。
- ・2人として同じ子がいないので対応を迷う事があります。そんな時も、又、いろいろな視点を持って柔軟に対応していきたいです。
- ・こども主体保育について、どこまでが主体で、どのようにこどもに援助したりすればいいのかという保育の仕方や、今のこどもたちが、どういうところをどういうふうに育つことができれば理想なのかということを中心に保育の在り方などの学びを深めることができたらいいと思う。
- ・幼児期は、自然体験が大切とされているが、幼児期の自然体験の重要性。成長にあわせて、どう取り入れたり、幼児期の発達とどう結びついているのか？ 援助が必要な子は、それぞれ対応は異なるが、一緒に生活していくために、どうつながり関わっていくか？
- ・前年度の絵本作りや、今年度の英語のように、講習の中に実践が多く含まれる内容はぜひ毎年取り入れて頂きたいです。
- ・発達障害ではなさそうなものの、家庭環境や愛着の問題が原因と思われる集団行動がしにくい子がとても多く、対応や支援の難しさを感じています。

Q9. 講習全体を通してのご感想や改善点等のご要望がございましたらお聞かせください。

- ・お忙しい中、講習日程を組んで下さり、感謝しています。講師の先生方、お世話してくださった先生方、本当にありがとうございました。
- ・先に色々書いたとおりです。コロナ禍で大学側も大変な中開催していただけたことが何よりの感謝です。正直しんどさもありましたが、なんとか最後まで受けることができてよかったと思っています

- ・やはりオンラインより対面で学んだほうがより心に届きます。そして、日々忙しく追われている中でこのような機会に同じ保育仲間と意見や近況を交換できる事にも研修の意義を感じました。
- ・近場で開催して下さったこと、丁寧な対応をして下さったこと、対応にとっても助かりました。欲を言えば、まとまった受講、バラバラにならない講義（日にちが前後にいたりきたりしない）だとこんがらがらないかなあと感じました。
- ・やはり、対面での開催の方が他園の先生達との情報交換などもできとても刺激になりますし、参加して入りやすいと感じました。
- ・2年間、講習を受けさせていただきました。どの先生も広い世界を経験し、話を聞いていても興味深いものばかりでした。人は凝り固まった考えでいてはいけません。常に学び続けることが大切だということ、学ぶということは楽しいと感じました。これからも学び続ける大切さを胸に保育の仕事をがんばりたいと思います。ありがとうございました。
- ・今の保育の傾向や現状を理解する機会になり、学ぶことが多くありました。二年間うけましたが、私の事情もあり、通信でいくつか単位を取りました。両方うけてみて感じたのですが、やっぱり対面で、受講する形が、良かったです。準備等大変だとは思いますが、一種上進の講習は、続けていっていただきたいです。二年間お世話になりました。ありがとうございました。
- ・他園を知ることもできました。ありがとうございました。
- ・先生方の夏休みや土曜日などのお休みを返上して、開講してくださっていた事に本当に感謝申し上げます。2年間に渡りありがとうございました。
- ・お忙しい中、自分たちの学びのために先生たちの貴重な時間を費やしていただきありがとうございました。どの先生方も（運営面で助けてくださった先生も）親切丁寧に色々教えていただき、人見知りな自分としてはとても安心して受講することができました。どの科目でも新たな発見の連続で、次の日の保育で活用させていただく日もとても多くありました。この年になって新たなことにチャレンジすることが減っていたので、貴重な体験となりました。今回の講習で学んだことを忘れず、より向上していけたらいいなと考えています。本当にありがとうございました。

（4）今後の課題・展望

今後の課題の大きな部分としては、受講者数を増やすという観点は継続した課題である。各行事との重なりや休暇調整が間に合わず申込を見送る場合があると把握している。また、遠隔受講の在り方も引き続きの検討課題である。なお、石川県内においては、幼稚園・保育所共に、認定こども園への移行率が7割を超えている。各施設においては、令和5年度から専門分野リーダー等への1分野の受講による「処遇改善加算Ⅱ」の取得を優先される可能性についても考慮する必要があったと反省している。石川県としては本事業による免許法認定講習を「処遇改善加算Ⅱ」に充当する研修として認定いただけるよう快諾いただいたが、開講前の広報・周知が不十分であり、課題が残った。今後は、令和8年度の完全実施が企図されている「保育士等キャリアアップ研修」の受講との重複を想定した募集・広報活動も視野に入れておく必要があると考える。

公募事業への申請によって開講する場合、今年度もまた、コロナ禍での公募事業としての開講の可否や実施する場合でのオンライン開講等の是非について、学内での検討のみならず、受講生へのオンライン環境等の確認もあり、検討・調整・準備に時間を要した。特に、オンライン開講やオンデマンド開講には、配信側の環境が整っていても、受信側の環境が整っていないことが事前への受講生調査にて明らかになっている。受講希望者の世代によっては、デジタルデバイドが存在するため、オンライン開講にあたっては受信環境の整備（例えば、幼稚園団体にて受信環境としての会場を提供していただき、遠隔受講環境を整える等の対応）も必要になる状況が継続して想定された。

なお、今回、新型コロナウイルス感染症に伴う欠席者に対してオンデマンド配信での対応を行った。受講者側へのメリットとしては、やむを得ない欠席による未受講を防ぐことが適った。今回の受講者に関しては、積極的にオンデマンド受講による学修を深めていただいた様子が伺えた。全科目においてオンデマンド受講という対応に関しては、講義・演習科目、いずれにおいても、受講状況の確認（講義内容の理解の把握）等で課題が生じるであろうと思われる。受講者の受診環境が整う時間や場所を選んで受講できる体制や、対面と遠隔のハイブリッド型等も引き続き検討していく必要がある。

開講時期に関しては、参加者からはやはり夏休み前の6月末から夏休み期間中の8月にかけての開催希望の声が多数挙がっている。開講期間の集中と日程と講師の確保が本事業に伴う免許法認定講習の開講に際しての継続した課題であるといえる。当該期間での開講を円滑に進める上で、私立幼稚園協会等関連団体との連携のもと早い時期からの募集が肝要である。